

令和3年度 第1回取手市総合計画審議会 議事録

1 開催日時：令和4年1月13日（木）午前10時00分～午前11時45分

2 開催場所：取手市役所 議会棟大会議室

3 出席者：

会長：大谷 基道

副会長：椎名 一夫

委員：小堤 修、石井 めぐみ、金澤 克仁、櫻井 由子、倉持 光男、
羽原 康恵、岩坂 照之、松沼 博樹、山崎 俊一、金田 冬彦

取手市：藤井市長

政策推進部：井橋部長

政策推進課：彦坂課長、高中副参事、中川係長、高橋主事

4 議事の概要

(1) 委員委嘱

- 取手市総合計画審議会条例第3条の規定に基づき、12名の委員の委嘱を行った。
- 委員任期は令和4年1月13日から令和6年1月12日まで。

(2) 市長挨拶

市長：総合計画審議会の委員をお引受けいただきまして、本当にありがとうございます。

総合計画は市の最上位計画であり、大きな方向性を示す指針ですが、コロナ禍を始め、世界的な気候変動など様々な環境の変化がある中で、その都度最適化しながら個別の施策は展開していく必要があります。昨年度はコロナ対策を優先せざるを得ない状況がありましたが、次世代にサステナブルにバトンをつないでいくためには、その他の施策も進めていく必要があります。

コロナ禍で繋がりが希薄になる中でも、地域社会を、全ての年代の人にとって、関わりの濃いものとして受け止めてもらえるよう、総合計画の審議やフォローをしていただきたいと思います。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

(3) 審議会運営にあたっての決定事項

議事に先立ち、審議会の運営に関する事項について、以下のとおり決定した。

- 取手市総合計画審議会条例第5条第2項に基づき、委員による互選の結果、大谷委員を会長、椎名委員を副会長に選出した。
- 会議の傍聴希望者がいる場合には、これを認めることとし、会議資料も配布することとした。
- 議事録は要点筆記形式にて作成した上、公開にあたっては、発言者の氏名は伏せ、「会長」、「委員」、「事務局」と表記することとした。

(4) 主な議論の内容

①「とりで未来創造プラン 2020」の概要について

策定時より半数の委員が入れ替わっているため、現基本計画である「とりで未来創造プラン 2020」の概要を説明した。

委員：テーマ、戦略、重点施策、重点事業の階層で施策体系が組まれているが、指標を重点施策に設定した理由は？

事務局：74の重点事業にもそれぞれ指標は設定されており、毎年度進捗管理を行っているが、まちづくり指標は総合計画における、より大きな視点での評価となることから、一階層上の重点施策に設定している。

②「とりで未来創造プラン 2020」令和2年度進捗報告

【事務局からの説明】

- ・実績値が順調に推移している取組は上向き、現状維持の取組は横向き、基準値を下回っている取組は下向きの矢印として評価した。
- ・実績値は出せるもののコロナ禍の影響を受け、事業の一部縮小・中止や施設の休館等のため、数値が著しく下がっているものについては、下向きの矢印に*をつけて標記し、4年間の累計値を指標としているものとコロナ禍により、事業が全て中止になり、評価することができないものについては、－とした。
- ・全体の評価としては、順調に推移している取組が7件、現状維持の取組が3件、基準値を下回っている取組が1件であった。
- ・累計値を指標としている取組やコロナ禍の影響を大きく受け、適正に評価することのできない取組を除くと、6割を超える取組において、順調に推移した。
- ・基準値を下回る、若しくはコロナ禍により著しく数値が下がった指標は、二つ目のテーマである「少子高齢化社会への対応」に多く見られ、全ての人々が健康でいきがいをもって豊かな人生を送るためには、人と人との関わりは欠かすことができず、個々に応じた丁寧な事業展開が必要であることを再認識した。

委員：市民活動情報サイト「いきいきネットとりで」は、トップページにリンクを貼るなど、もっとアクセスしやすくすべきではないか。

事務局：担当課と協議し、対応する。

委員：テーマ「活力の創出」における指標の一つである取手駅北土地区画整理事業の整備進捗率について、令和元年度の実績値と令和2年度の実績値が同じであるにもかかわらず、上向きとした理由は何か。また、事業完了に向けた進捗状況について伺いたい。

事務局：指標の進捗率は造成率から取っている。この造成率は地権者から預かった土地を造成し、地権者が使用を開始できる状態にしてお返しする、「使用収益の開始」が可能となった率である。担当課に確認したところ、令和元年度と令和2年度を比較すると、使用収益の開始まで至らなかったものの、解体や地下埋蔵物の撤去等を進め、事業完了に向けて適切に進捗しているとのことである。

- 委員：公開資料はどの範囲となるか。指標推移の一覧表からのみでは、今の説明のような事情が読み取れない。
- 事務局：公開にあたっては、一覧表に注釈や備考をつけて、市民に誤解を与えないよう、担当課と協議の上、工夫する。
- 委員：まちづくり指標が定量評価が多く、事業の質や、その事業を展開した結果どのような効果生まれ、何が起こっているのかというのが非常に見えづらい。担当課が頑張っても、適正な評価につながらないといったことが懸念される。
- 事務局：質の評価については、個別の各施策における計画等で評価を行っているものもある。なお、質の評価については主観によって結果が左右されることが懸念されることから、定量評価としている側面もある。さらには市の総合計画は「総合戦略」と一本化したことから KPI（重要業績評価指標）という定量評価を定める必要性があったこともあり現在の評価指標となっている。
- 委員：新型コロナウイルスの影響を受けて指標を新たに設定する可能性はあるか。
- 事務局：各担当課での個別の計画や、次期基本計画策定時に検討する。現段階で本計画の指標を変更する予定はない。
- 会長：全国的な行政評価のトレンドとして、90年代半ばくらいから定量的な評価を導入するようになってきた。質的な評価を行うにあたっては、客観性の担保に課題がある。他自治体においては、市民アンケート等で市民の認知度や満足度を測り、評価や施策の展開に繋げている例もある。取手市も計画策定時に市民アンケートを行った経緯があると記憶している。
- 事務局：とりで未来創造プラン 2020 においては、策定時に市民アンケートを実施し、計画に市民の声を反映させている。毎年度行っていた市民アンケートは財政難により今は実施していないが、個別の行政計画の策定時にはアンケートを実施しているものもある。
- 会長：定性的な指標の設定や評価方法については、今後も検討、議論を行っていきたいと思う。
- 委員：新型コロナウイルスによって様々な社会構造の変化が起きている。基本構想には期限を定めていないが、市民の意識や社会経済情勢の著しい変化等により相当の理由が生じたと認められる場合には見直すことが出来るとされており、見直す必要性があるのではないか。また、その場合においては、50 年先、100 年先を見据えた長期的なビジョンも併せて設定すべきではないか。
- 事務局：第五次総合計画では基本構想が 10 年、基本計画が 5 年で設定されていた。平成 27 年度の第六次総合計画策定時には、「取手市次期総合計画のあり方に関する検討会議」において、基本構想は普遍的な取手市が目指すべき方向性を設定することで期限を定めないこととした。今回のコロナ禍は確かに大きな社会の変化をもたらしたが、それが目指すべき方向性についても見直すべきなのか、基本計画で個別に対応していくのか、次期計画策定時には改めて本審議会に諮りたい。

会 長：新型コロナウイルスの影響をどの程度までまちづくりの方向性を決める計画に盛り込んでいくかは、他自治体においても課題である。新型コロナウイルスの影響がどの程度まで続くのか、見通しが立てば議論も活発化してくると思う。

委 員：取手駅西口の再開発事業について、残っている建物もあると見受けるが進捗状況はどうか。

事務局：現在地権者の方とは、丁寧に交渉を続けているところである。

委 員：今回の進捗報告においては、まちづくり指標の実績値のみ示されているが、それに対する分析や今後の方向性などはどのように捉えているのか、この審議会においては示されるものなのか。具体的には「子育て支援策の展開」という重点施策の指標となる待機児童数の推移として、平成30年度の基準値から令和元年度、令和2年度と増えてしまっている原因とその対策などをどのように行っているか伺いたい。

事務局：まちづくり指標の公開にあたっては、注釈や補足資料などを用いて、より分かりやすい資料を提供することとする。また待機児童数が増えてしまっていた要因としては、働く女性の割合が予想以上に増えたことがあげられる。取手市としても、受け入れ定員数の増加や、子育てコーディネーターによる保育所マッチングなどを進めてきた結果、来年度の報告内容とはなるが、令和3年4月時点での待機児童数はゼロとなった。

委 員：今後進捗報告は毎年度行うのか。

事務局：毎年度1回は審議会を開催し、進捗状況の報告を行うとしている。

委 員：令和2年度の進捗状況と令和3年度が取組が混在した資料となっていると混乱する可能性がある。対象の年度を取組について、具体例を挙げて報告するスタイルのほうがよいのではないか。

事務局：今回の委員の方々のご意見やご指摘を踏まえて、より分かりやすい資料の作成、会議の進行を心がける。

委 員：この進捗報告においても、具体的な課題をテーブルにあげて、議論をしていく形のほうが有益な結果を生むのではないか。

会 長：事務局には次回開催時の審議内容について、引き続き検討願いたい。

委 員：新型コロナウイルスによる影響が今後どのようになるかは現時点では見通せないが、指標や計画内容の変更も踏まえた検討は今後も必要と思う。

会 長：他に意見がある者が無ければこれで閉会とするがどうか。

一 同：異議なし。

事務局：本日いただいた意見等は、担当課と共有する。また、まちづくり指標の進捗報告は課題の分析や今後の方向性を追記した説明資料を作成した後に公表することとする。

以 上